

番組審議会

第 6 9 6 回

2 0 2 5 年 9 月 1 7 日

■ 審議会の構成

出席委員数 1 0 名

委員長 音 好 宏

副委員長 江 澤 佐知子

委 員 川喜田 尚 田 中 東 子

谷 本 歩 実 洞 口 依 子

長 嶋 有 二 関 辰 郎

水無田 気 流 目加田 説 子

T B S テレビ 龍 宝 社 長

合 田 専 務

井 上 取締役

三 城 コンテンツ戦略局長

八代田 スポーツ局長補佐

藤 澤 スポーツ局「東京 2 0 2 5 世界陸上」

マネージメントプロデューサー

藤 田 編成考査局長

浜 崎 カスタマーサクセス室長

満 田 番組審議会事務局長

■ 議事概要

1. 審議事項

(1) 「東京 2 0 2 5 世界陸上」現地視察

2. 事務局報告事項

(1) 次回審議会の議題及び日程

【審議事項について】

1997年からTBSテレビが放送している世界陸上が、今年34年ぶりに東京での開催となった。「国立競技場をフルスタジアムにして、東京の元気を世界に発信する」ことを目標に掲げ、約76.5時間にわたる地上波での放送をはじめ、機運醸成なども含め準備を進めてきた。

番組審議会委員は大会5日目に国立競技場を訪れ、スポーツ中継の現場を視察した。また実際に競技を観戦した他、テレビ中継も視聴して、今回の世界陸上の放送についても意見を寄せた。

【委員の主な意見】

＜現地視察について＞

- ふだんなかなか立ち入ることができない中継の現場を興味深く拝見した。多くのスタッフ総出で競技中継を行っていることを実感、自宅のテレビで見るときも具体的に想像できるようになった。
- テレビ中継の価値を再認識した。競技の切り替え、スイッチング、競技ごとの実況の切り替えなど、視聴者が当たり前と感じているスポーツ中継の裏側には超人的な技量と技術があることがわかった。
- 複数の競技が同時進行する世界陸上では、高度なオペレーションが不可欠であると再認識した。現場各所での工夫や調整の緻密さに感銘を受けた。TBSの中継技術の強みであり大きな財産、今後継承していく意義を感じた。
- チケットがない人も立ち会えるメダルセレモニーは、大会が外に開かれていることを示すよい企画だった。番組内でもその点をより積極的に強調してもよかったのでは。
- 大会運営における最大の懸念は気候条件のように思った。観客・選手・スタッフの熱中症リスクにも配慮しなければならない状況、今後も引き続き安心感を高める工夫が望まれる。

＜競技中継・放送について＞

- 競技の醍醐味を伝えることを大切にした制作方針のもと、織田裕二さんをスペシャルアンバサダーに置き、個々の選手の背景を解説しながら番組を進行。放送番組として高い支持を集めたのはその番組制作の姿勢が評価された結果ではないか。
- 「世界陸上」の認知度の上昇と広がりを感じた。会場に来る人は少数派、「番組を通じてどこまで感動を伝えられるのか」が大会の成功の鍵を握っていたことは間違いなく、そして最大限有効であったと思う。
- カメラ慣れ、ネット慣れした世代である選手たちは、精細な絵の中でどう振る舞うかを知っていて誰もが魅力的に躍動していた。カメラ側もどう撮影すればいいか心得ており、互いの呼吸が合っていた。肉体の躍動の美しさがしっかり出ていて報道的価値を感じた。
- 競技直後のインタビューで、率直な思いを口にする選手が多かったように感じた。それはアナウンサーの言葉を引き出す力と準備があつてこそ。上位進出を選手とともに見守り、一喜一憂をともにする「リアリティ」が視聴者を引き込んだのではないかと思う。
- 女性アナウンサーをスポーツ実況に登用すべく育成していることを高く評価。今後も女性アナウンサーが様々なスポーツ実況を担当する機会が増えることを期待。
- ハイライト映像などで、実況とワイプ内出演者の会話を同時に流していたが、どちらの音声もノイズになってしまうし、アスリートや競技に対して失礼な演出。競技の感想は競技後に話してほしい。
- マラソンや競歩など、中継が日本人選手に偏りすぎているのではと感じた競技もあった。日本人のメダル候補選手にスポットライトが当たるのは理解で

きる一方、多くの視聴者は競技そのものの推移や競いの行方を楽しみにしていたのではないか。

＜TBSの世界陸上への取り組みについて＞

- ただ単に「世界陸上」の競技を中継するだけでなく、「世界陸上」という文化的イベントの開催・運営そのものに関わり実施を推進。放送局と文化イベントの今後のありようを問うた先進的な試みだったと思う。
- テレビを通してOAを見られない人が多くなっている昨今、TVerはもちろんYouTubeやInstagramなど多様な媒体で情報を流し、会場へ足を運んでもらう、本放送を見てもらうようにしていく努力を感じた。
- 残念に思ったのはイメージソング。これまで名曲がスポーツ中継のタイアップで生まれている。ここまで力を入れていた日本での世界陸上、QUEENではなく令和以降の皆に嬉しいアンセムとなる新曲を狙ってほしかった。
- 単独で9日間の長時間編成は、放送業界の環境を考えるといい意味で常軌を逸していると思った。この大成功は地上波にとっても大きな意味がある。
- NetflixがWBCを独占配信するというニュースがあったが、開かれた多数の人が見られる環境を維持することは重要。大型イベントを中継するノウハウも、一度途絶えると継承が難しいのではないか。

TBSテレビでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。（番組審議会事務局）